

2-5 研究施設などの見学プログラム

研究施設などの見学プログラムは、研究開発機能を持つ活動主体にとり、一般市民と接点を持つ機会として貴重です。また同時に、一般市民にとっては、科学技術研究の現場に触れることができる数少ないチャンスです。展示施設と比較すると受け入れ可能な人数が限られてしまう面はあるものの、現場ならではの濃密な経験ができるという大きな長所があります。工夫のしかたによっては、ファン層づくりへの貢献も十分に期待できるでしょう。

(1) 一般市民の関心に沿ったテーマ・内容

① ボランティアがツアー内容を組み立て、研究者が施設を案内

日本科学未来館では、研究者のプロジェクトチームが常駐し、科学技術振興機構（JST）が実施する最先端の研究開発を行う場である研究棟に来館者を案内して、そこで行われている最先端の研究プロジェクトをわかりやすく説明する「研究棟ツアー」を実施しています。ツアーの内容の組み立て、配布資料やパネル作成は、すべてボランティアが実施し、見学者にどの研究現場を紹介するかは、危険性がない、見て面白い、研究活動において重要、などの条件を考慮して選択しています。

(2) 見学者に魅力を感じさせる工夫・演出

① そこでしか見られないものを全てセットにし、ツアーで披露

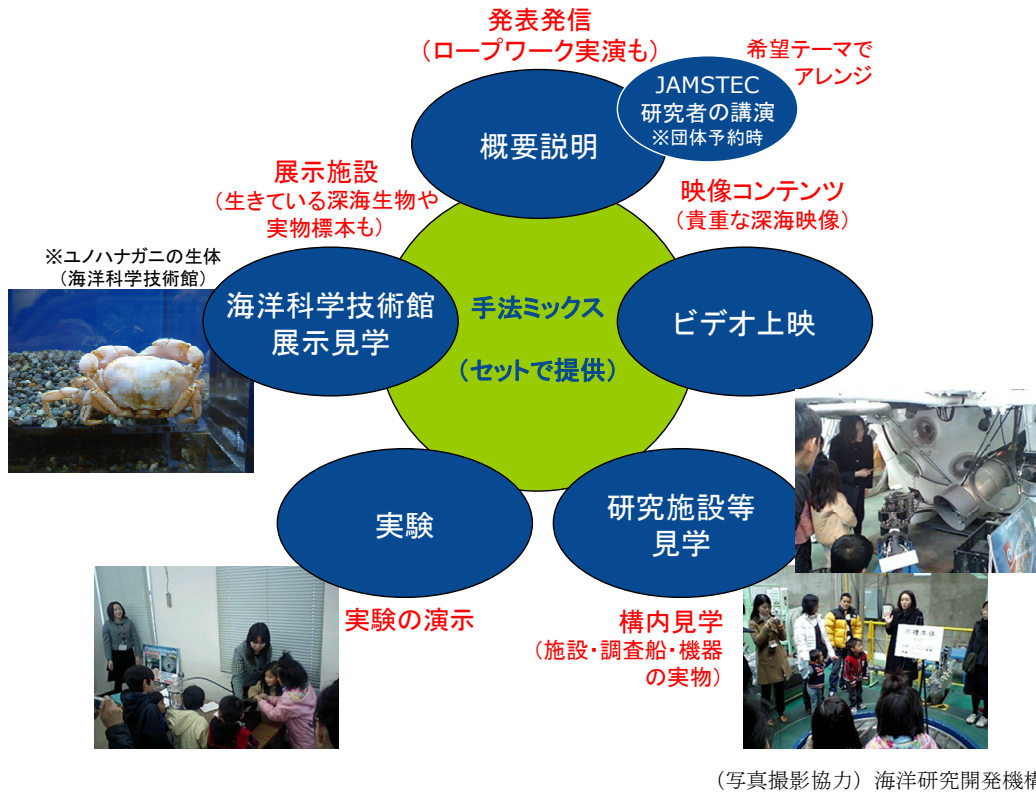
海洋研究開発機構（JAMSTEC）では、毎月第3金曜日に「横須賀本部見学ツアー」を実施しています。小学生から一般を対象に、概要説明、ビデオ上映、研究施設などの見学、実験の演示、海洋科学技術館展示見学を、2時間半ほどかけて回ります。団体ツアーの場合にはさらに、同機構の研究者による要望したテーマでの講演もセットにしています。

このツアーの大きな特徴は、水圧のすさまじさを実際に目の当たりにする圧力実験や、実際に潜水船で捕獲してきた生きたユノハナガニの展示、ロープワーク実演など、ここでしか見られないものを、色々とセットにして全て見せてしまうことです。

② 専門ガイドによる解説

海洋研究開発機構（JAMSTEC）の「横須賀本部見学ツアー」では、常に3名の見学ガイドスタッフが催行して解説を行います。3名のうち、1名は研究内容に詳しい元海洋研究開発機構（JAMSTEC）研究者（退職した研究者を再雇用）で、残り2名がツアー専従の見学ガイドです。

■海洋研究開発機構の「横須賀本部見学ツアー」の内容と実際の様子



(写真撮影協力) 海洋研究開発機構

③ 年1回のイベントとし、見学ツアーのほかにも体験型のさまざまな企画を提供

産業技術総合研究所（産総研）では、夏の恒例行事（1日間）として「産総研つくばセンター一般公開」を行っています。施設見学ツアー、研究室体験ツアーのほか、各ターゲットを対象とする恒例の企画、および著名な研究者による講演を含む特別企画を実施しています。

このプログラムでは、実演、体験するコーナーを数多く設けることで、子どもから大人まで科学技術の面白さを実感してもらうことを目指しています。パネルを展示して説明するのではなく、体験型である実験をメインにすること、仮に実験が出来ない場合でも、参加者に現物に触れてもらう工夫をすることを各研究者に推奨しています。

■「産総研つくばセンター一般公開」の各種企画（2006年度）

企画	概要
施設見学ツアー	各研究部門の施設を見学し、研究内容について映像や実験を交えた解説を聞けるツアー
リアル研究室体験ツアー	産総研職員でも普段なかなか見ることができない特別な施設・装置が見学できるツアー
チャレンジコーナー	小中学生を対象としたおもしろ科学実験コーナー(計26コーナー)

サイエンス実験ショー	小学生高学年以上を対象とした実験ショー
サイエンストーク	将来研究者を目指している高校生が、産総研の若手研究者とディスカッションを行う催し
研究成果コーナー	新聞・TV等で話題となった研究成果を研究者が自ら解説するコーナー（計 22 コーナー）
特別展	特別講演「青色発光ダイオードへの挑戦」 中村修二氏 特別企画「恐竜ロボット」 地質標本館「砂の世界へようこそ・美しい砂と遊ぼう！」 科学教養講座「ロボットって何でしょう？」「昔の地震を発掘する：活断層って何？」

（出典）産業技術総合研究所の資料に基づいて榊ノルドが作成

なお、このイベントは小中学生・高校生が参加しやすいように、夏休み時期（2006年度は7月22日）に開催されています。

☞ チェックポイント

- ① 見学プログラムのターゲット（対象）は明確ですか。
- ② プログラムの内容や解説方法は、ターゲット層の関心・ニーズに合っていますか。
（活動主体側が見せたいものを見せているだけ、になっていませんか）
- ③ 見学者に、わざわざ見学に来る価値を感じさせる工夫が施されていますか。
- ④ 研究者が、自ら案内や解説をするなど、見学者と直に接していますか。
- ⑤ 何か、「ここに足を運んだからこそ見られるもの」を提供できていますか。
- ⑥ 見るだけでなく、体験できる機会を提供していますか。
- ⑦ 一方通行でなく、見学者とコミュニケーションを取ることができていますか。
- ⑧ プログラムのプロモーションは、あらゆる利用可能なルートを通じて行っていますか。
- ⑨ ボランティアの助力を得る努力をしていますか。
- ⑩ 活動に対する評価を行い、プログラム改善などに役立っていますか。